

事例⑮ 学校図書館教育（読書活動）

小学校

中学校

高等学校

★ポイント

- 子どもの読書活動の活性化について、図書館主任等の説明を聞くことにより、現状及び課題を共有化する。
- どの教材で、どのような実践を行うのか等について、協議を参考にして各自検討し、実践につなげる。

■関連する視点：視点3－問題の発見と共有 視点6－人材の効果的な活用

研修の計画

- ◇ 目的
「子どもの読書活動の活性化」に向けて課題の共有化を図るとともに、今後実践すべき事項について検討する。
- ◇ 所要時間：約70分
- ◇ 方法・形態：演習
- ◇ 対象者：全職員
- ◇ 事前準備：児童生徒に読書に関するアンケートの実施
「学校課題実施計画書」を読む（全職員）
- ◇ 展開

内容	概要及び留意点	資料
1 研修のねらい等についての共通理解 (5分)	・研修のねらいと研修の進め方について知らせる。(講師または、学習指導主任)	・レジュメ
2 課題意識をもつ (15分)	①各教職員が1学期に取り組んだ、読書活動の活性化に向けた子どもたちへの働きかけについて、一人3分で発表し合う。 ②学校図書館の利用状況及び読書の現状と課題について、図書館主任(図書館)から説明を聞く。	
3 課題解明に向けての具体策の検討 (35分)	①現状を生んでいる原因を各自で考え、付箋に書く。それぞれが考えた「原因」について紹介し合う。 ②「読書活動の活性化」のための具体策やアイデアを思いつくだけ付箋に書く。 ③記入した付箋を課題解決シートに貼り付け、効果・着手の難易度の点から整理する。	・付箋の書き方の例示 ・付箋 ・課題解決シート
4 情報交換 (10分)	・各グループで出た意見を発表し合い、全体で今後の実践事項の確認をする。	
5 振り返り (5分)	・振り返りシートに参考になったことや感想を記入する。	・振り返りカード

- ◇ 評価
「子どもの読書活動の活性化」に向けて現状と課題、児童生徒の読書活動の充実のための共通実践事項を共有することができたか。

研修の進め方

各自の取組の発表

自分の行った取組についての発表は、研修に対する負担感をもたせないために、事前に指示しておかず、研修の場で気軽に話してもらおうとよいでしょう。教員の働きかけでなく、児童生徒の読書への取組状況を話してもらおうとも考えられます。

図書館の利用状況の説明

本事例では、学校としての課題ということを示しています。事前に、教職員が課題だと感じていることを聴取しておき、簡単な資料を作成しておくともよいでしょう。

また、事前に児童生徒にアンケートを実施しておく、学校の実態に沿った検討が可能となります。参考までにアンケート項目の例を、次に示します。

【図書館主任が用意するデータ（例）】

- ・月別図書館利用状況
- ・学級別図書館利用状況
- ・よく読まれている本
- ・個人別貸出冊数
- ・授業における図書館活用に関する資料等

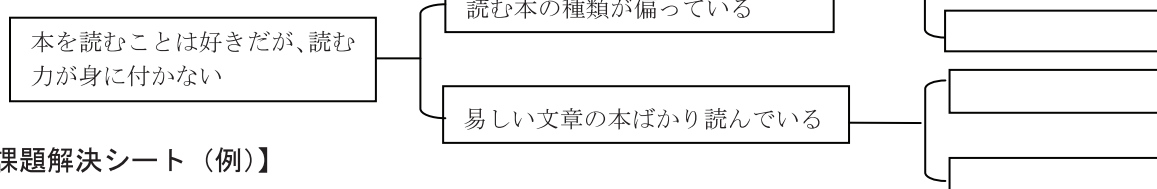
【読書に関するアンケート項目（例）】

- 読書は好きか嫌い
- 読書が好き（嫌い）な理由
- 1学期に読んだ本の冊数
- 好きな本のジャンル（選択）
- いつ、読書するのか
- お薦めの本は
- 図書館を利用しているか
- 図書館を利用しない理由
- 購入希望の本は 等

読書活動活性化のためのアイデア

現状を把握し、そこに問題があると考えられる場合には、その原因を見つけ出すことが必要です。時間にもよりますが、次のような手法を活用することも考えられます。

【ロジックツリー（例）】



【課題解決シート（例）】

課 題	仮 説	対応の具体策	備考
様々なジャンルを知らない	本の情報が少ない	・読書郵便・本の紹介コーナー	

期待される振り返り

- ・図書館の担当者ばかりでなく全員が協力し合って取り組むことが必要だと感じました。
- ・日々の継続的な指導が大切であると思いました。

工夫

- 日常の実践につなげるには・・・
- ・この研修を踏まえ図書館主任等が今後の取組の重点などを見直し、全体で確認します。
- ・取組状況を定期的に紹介し合う場を設定します。

参考資料・情報

全国学校図書館協議会では、毎年、読書に関する調査を実施し、調査結果を Web 上で公開しています。